

オリンピック・パラリンピック
出場経験者よりスポーツへの情
熱と皆様への熱いメッセージを
お届けします。

スマイルアスリート 出口 弘之さん

私は高校から始めたクロスカントリースキーを継続したくて高校卒業の1971年に自衛隊冬季競技教育隊に入隊しました。翌年の札幌五輪でバイアスロン会場に日本代表選手を応援しに行くこととなり、リレー競技を観戦しました。この時初めてバイアスロン競技を知りました。その後、バイアスロンのナショナルチームに入ることが出来、3大会五輪出場しました。

選手生活を終えてからは、コーチの立場となり海外の大会にたくさん参加し、この時、選手側の気持ちと陰から選手を日のあたる場所に出場させる喜びを同時に感じました。

現在は、競技団体の理事として、バイアスロン競技をいかに日本に普及して、優秀な選手を発掘し、育成するシステムを作り上げることを考え、活動が続けています。



バイアスロンと出会い、歩んだ人生



「でぐち ひろゆき」さん

バイアスロン競技で、1976年インスブルック、1980年レークプラシッド、1984年サラエボ五輪に出場。

@belarusbiathlon



オリンピックでびっくり!

1976年インスブルック五輪で驚いたことは、ルールや競技に使用する用具が変わっていたことと、観客が競技の楽しみ方を知っていたことです。従来の紙の的がメタルターゲットに変更され、何度でもリセットすることが可能となり、観客が命中しているか否かを目視できるので、選手が一発命中するたびに大歓声があがりました。

また、競技用具についてですが、日本はスキー素材はまだ木材が主流でしたが海外では既にプラスチック、カーボンを使用したものになっていました。重量は木製の半分程度で滑走は比較にならないほど良く、ワックスの技術もはるかに進んでいました。スキーとスキー靴を繋ぐビンディングは、日本では金属製の大きなものでしたが、海外では小型化され、更に靴と一体化したものに変わっていました。ちようど、登山靴と運動靴くらい違いがあるものでした。

現在のように、インターネットが発達していない時代だったので、スキーの本場であるヨーロッパからの情報は当時は少なく、現地に行つてから知ることが多かったように感じます。



心から感謝の気持ちでいっぱい

2011年3月まで、近代五種とバイアスロンの連合であった競技団体を分離して、一般社団法人日本バイアスロン連盟として独立しました。それ以降、独立した連盟として競技の普及及び大会開催と事業が始まりました。

た。

どの事業を行うにしてもボランティアの協力支援が必要で、最初は8名の方がお手伝いをして下さり、その後、毎年口伝で広まり、現在は約50名の方々が協力をいただけているようになりました。

皆さんの年齢は決して若くありません。お手伝いパワーを発揮して下さるのは、ご自身の定年を迎えた第二の人生を過ごされている方達です。ボランティアの皆さんは社会経験が豊富で、色々な知識と技術を持った方ばかりです。2017年冬季アジア大会でもボランティアの活躍が目立ちましたが、心からボランティアの皆さんにお礼を申し上げます。

〈質問〉大会での思い出を教えてください。

初めての海外大会出場は、23歳の時のインスブルック五輪でした。最初の海外大会で五輪だったので、不安が募りました。その時に、先輩選手に不安な気持ちを話すと、その方から「どんな結果が出て大丈夫。皆さんの代表として戦えることに感謝しなさい。」と言われ、この一言のお陰で乗り切ることが出来ました。今はこの言葉を後輩が不安な時に投げかけてあげたいです。

「ウィズ」アスリートからの挑戦状

Q 冬季五輪に男子バイアスロン競技が公式種目になったのは、1960年スコーバレー五輪からですが、女子バイアスロン競技が公式種目になったのはいつの五輪からでしょうか?

(回答はウラ面)



「高雄マラソンボランティア」

参加受付開始しました！

2020年2月9日(日)「台湾・高雄マラソン2020」が開催されます。8月に実施しました当大会ボランティアの参加意向アンケートで多くの方から参加への興味があるとの回答をいただきました。

今回も、アンケートの結果をふまえて、スマイル・サポーターズとして台湾でのボランティア活動に参加予定です。2019年12月13日(金)までにぜひ参加してみたい方は下記のSGSC事務局連絡先にお問合せください。

ボランティア活動内容は昨年度大会と同様で給水活動や札幌PRブース応援活動がメインとなってくると思いますが、台湾現地のボランティアやランナーとのあたたかい国際交流も楽しめます。(英語や中国語に自信がない方でも安心してボランティア活動に取り組めます)皆様のご参加お待ちしております！



ラグビーW杯でスマサポが活躍！！

連載 Road to 2019



たくさんの方の笑顔をお届けしました！

2019年9月18日(水)～29日(日)、ラグビーW杯2019のスマイル・サポーターズボランティア活動が無事終了しました。のべ200人を超えるスマイル・サポーターズの皆さんに協力いただきました。ボランティア内容は、試合会場周辺における運営補助、最寄駅や空港における案内、ファンゾーンにおける来場者サービスなど多種多様でしたが、皆さん臨機応変に活動いただき大会運営はとてスムーズでした。

スマイル・サポーターズの皆さんに考えていただいたおてもなし案も大会に取り込まれ、海外の選手や観光客にも最高のおもてなしが出来たと思います。

スマイル・サポーターズのラグビーW杯2019のボランティアは終了しましたが、大会は11月2日(土)まで続きます。今後も日本の活躍を見逃さず応援していきましょう！

また、来年は、東京オリンピック・パラリンピックが控えています。今後もスマイル・サポーターズの力を合わせて大会を盛り上げていきましょう！

スマ・サポ インフォメーション

詳しい情報はSGSCのHPから！
<http://www.sapporosports.org/volunteers/>

★今後のスマ・サポ活動予定★

- 北海道コンサドーレ札幌2019シーズン運営ボランティア10月以降も随時募集 ※はがき登録者の方で、ご興味ある方はコンサドーレ ボランティア担当(Tel011-777-5310)までお問い合わせください。
- 札幌マラソン(募集終了) 2019年10月6日(日)
- 作AC真駒内マラソン(募集終了) 2019年11月3日(日)
- 東京2020大会「都市ボランティア」(募集終了) 2020年7月開催



スマ・サポの輪を広げよう！

※少人数または急遽のボランティア要請の場合、メール配信のみのご案内もありますので、ご了承ください。募集詳細はHP上またはメールでお知らせいたします！

開催国のフランスは当時のクロスカントリー選手の精鋭の中から射撃の素養のある選手を選び猛練習！

クイズのこたえ:1992年アルペールビル五輪から 結果、初めての女子協会で金メダルを獲得する快挙を成し遂げ、その後も男女共に常勝国として現在も活躍中です。